

私は元お笑い芸人です。そして、その経験が育児に取り入れ、娘と親子漫才に挑戦していました。最初は、お風呂や食卓などの家族だんらんの時間を使って、言葉の掛け合いを行っている程度でした。きっかけは、娘が2歳の時の「私もまんじやい(漫才)したい」という言葉。小学校教員時代に同僚と職場の飲み会で披露する漫才を自宅で練習していたことがあり、それを見ていた娘が「楽しそうだなあ」と感じたからだそうです。子どもは親の背中を見て育

④ 親の背見て漫才



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

つといいますが、まさか漫才をしている背中も見ていたとは…。

ということでも親子漫才がスタートしました。まずは、同僚と飲み会用に考えたネタを娘とやってみると「完璧とは言えないがセリフを覚えてる!」。「どっせ飽きるだろう」と思っていました。が、「パパ、もう一回やろ」と漫才をしたがる娘とそれがうれしい私は何度も何度も漫才をしました。結局、3歳になった娘と私は飽き

ることなく、漫才を続けていま



さすがに1年間もやるとある程度の形になってきます。お遊びのような親子漫才のつもりでしたが、「ここまで娘が頑張ったのだから」ということで漫才の大会に挑戦することになりました。結果は

もちろん予選落ちでした。しかし、大会という目標をもった練習は、お遊びの域を超えていました。お風呂で練習、食卓で練習、寝る前のお布団で練習。娘はドンドン上達していきます。

私には「娘の成長をもっとみたい」、娘には「もっとほめられたい」という気持ちがあり、それが相乗効果を生み出し、練習のたびに楽しさがあふれてきました。そして、娘が5歳の時には小さな規模ですが、漫才の大会で優勝でき

るくらいの実力になり、最終的にはプロ参加の大会で優勝するくらいになりました。



さらに、2歳下の息子も「まんじやいしたい」と言い始めました。過去の優勝コンビは「ダウンタウン」という芸人の登竜門の大会である「第30回今宮戎マンザイ新人コンクール」にも挑戦し、奨励賞を受賞しました(ちなみに、私たちが受賞した翌年の大会の受賞者にはM-1チャンピオンの「ミル

クボーイ」がいます)。

「漫才で育児」。一見、特別な育児をしているように思えますが、大きく捉えれば親の特技を生かした育児になります。「料理が得意な親が子どもと一緒に料理を作る」「野球やサッカーが好きな親が子どもと一緒に野球やサッカーをする」「ピアノが好きな…」と全く同じで、私にとっては料理や野球が漫才に置き換えられただけのことなのです。親が苦手なことを無理になくても、好きなこと、得意なことを一緒にすれば、親子で楽しく成長できる時間となるはずです。

毎月第1土曜掲載です

特技や好きなことで一緒に成長